

107

C

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 25 年 2 月 9 日 16 時 00 分 ~ 17 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 31 問で解答時間は正味 1 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑 法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

- 1 医師憲章による医師の責務に含まれないのはどれか。
 - a 利己主義
 - b 医療の質の向上
 - c 医療へのアクセス向上
 - d 患者との適切な関係の維持
 - e 有限な医療資源の適正配置

- 2 頸髄損傷による四肢麻痺患者のリハビリテーションで正しいのはどれか。
 - a 障害が固定した後に開始する。
 - b 実生活の場での援助が重要である。
 - c 到達目標は医療者によって決められる。
 - d ノーマライゼーションの理念とは相いれない。
 - e 自立が期待できない重度障害者は対象とならない。

- 3 水溶性ヨード造影剤の副作用について正しいのはどれか。
 - a 死亡例は報告されていない。
 - b 予防に飲水制限が必須である。
 - c アナフィラキシー様反応は投与直後には起こらない。
 - d 腎機能低下は造影剤腎症のリスクファクターでない。
 - e 気管支喘息はアナフィラキシー様反応のリスクファクターである。

4 純音聴力検査(気導検査)の結果(別冊No. 1 ①～⑤)を別に示す。

老人性難聴に特徴的なのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊 No. 1 ①～⑤

5 医療面接で患者の話を聴いている間の振舞いとして、患者の発話を妨げる可能性が高いのはどれか。

- a うなづく。
- b 顎を触る。
- c 相づちを打つ。
- d 腕時計を見る。
- e 髪の毛を触る。

6 下肢浮腫をきたしにくいのはどれか。

- a 妊 娠
- b 低栄養
- c 腎不全
- d 本態性高血圧症
- e 下肢静脈血栓症

7 腹水の身体診察所見はどれか。

- a 圧痛
- b 拍動
- c 波動
- d 反跳痛
- e 筋性防御

8 腹部触診で呼吸に応じて移動する腫瘤はどれか。

- a 脾嚢胞
- b 胆嚢癌
- c 腹部大動脈瘤
- d 腹膜偽粘液腫
- e Krukenberg 腫瘍

9 神経系の診察場面(別冊No. 2 ①～⑤)を別に示す。

上腕二頭筋腱反射の診察法として適切なのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別冊 No. 2 ①～⑤

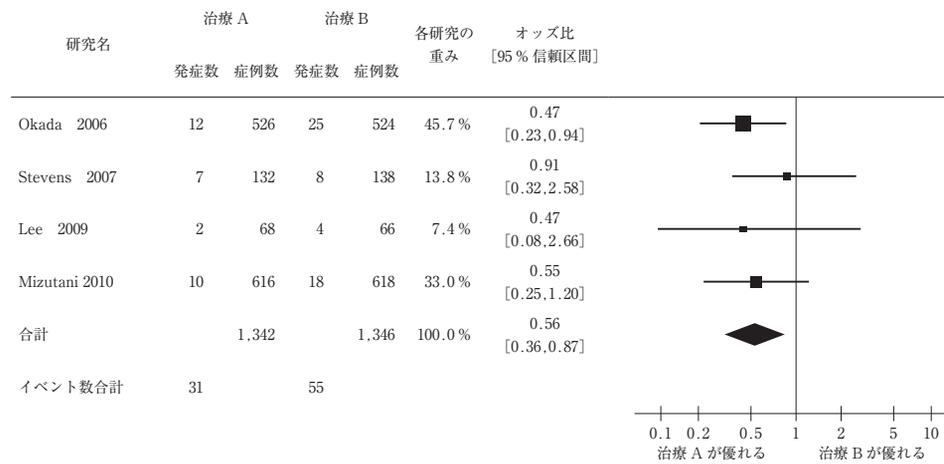
10 採血手技について正しいのはどれか。

- a 血管の穿刺は消毒用アルコールが乾いてから行う。
- b 生化学検査の検体を採取するときは手袋は不要である。
- c 血液培養の検体を採取するときは鼠径部を第一選択とする。
- d 動脈血ガス分析の検体を採取後は穿刺部を 10 秒間圧迫する。
- e 血液の流出が少ないときは強い陰圧をかけて検体を採取する。

11 結核の検査について適切なのはどれか。

- a 痰が出ないときは胃液を採取し検体とする。
- b 末梢血で白血球増多が著明な場合は結核の可能性が低い。
- c ツベルクリン反応が陽性であれば直ちに治療を開始する。
- d 隔離の必要性を決めるため気管支ファイバースコープで痰を採取する。
- e 結核菌特異的全血インターフェロン γ 遊離測定法(IGRA)が陽性であれば直ちに治療を開始する。

12 ある研究結果の表を示す。



この研究方法はどれか。

- a 横断研究
- b コホート研究
- c 症例対照研究
- d ランダム化比較試験<RCT>
- e メタ分析<メタアナリシス>

13 外来待合室で心肺停止となった成人に対して、研修医 2 人が胸骨圧迫とバッグバルブマスク人工呼吸により効果的な心肺蘇生法を行っている。

2 分間の人工呼吸の回数に最も近いのはどれか。

- a 10 回
- b 20 回
- c 30 回
- d 40 回
- e 50 回

14 関節リウマチの病変が始まる組織はどれか。

- a 腱
- b 骨
- c 滑膜
- d 靭帯
- e 軟骨

15 適切に管理され感染徴候のない中心静脈カテーテルの入れ替え時期について正しいのはどれか。

- a 48時間ごと
- b 96時間ごと
- c 1週間ごと
- d 2週間ごと
- e 定期的な入れ替えは不要

16 24歳の女性。全身性エリテマトーデス(SLE)再燃のため入院した。17歳の時にSLEと診断され、副腎皮質ステロイドの大量投与を受け寛解した。その後大学を卒業し、現在婚約中である。今回入院時は腎症を合併しており、免疫抑制薬による治療について婚約者同席で説明を受け、同意のもと治療が開始された。夕食後に部屋にいなかったため探すと、誰もいない外来で泣いているのを発見した。

心理状態を考慮した医師の対応として適切なのはどれか。

- a 必ず治ると保証する。
- b 泣いてはいけないと叱る。
- c 強い心で病気に勝つように励ます。
- d 共感的態度で共に現状を受け止める。
- e 後ろ向きな言葉があれば逐一否定する。

17 60歳の男性。悪性腫瘍の治療中である。医療保険が適用される標準的抗癌化学療法の効果が十分でないため、海外ではすでに発売されている新薬を加えた併用療法を強く希望している。この新薬は国内ではまだ保険適用がなく、保険診療との併用も認められていない。

この新薬を使う場合の治療費に関する説明として適切なのはどれか。

- a 「標準的治療も含めて全額が自己負担になります」
- b 「新薬の費用も含めて全額が保険で支払われます」
- c 「新薬の費用も含めて一部が自己負担になります」
- d 「併用する新薬の費用に限り自己負担になります」
- e 「新薬とは別の保険適用薬を使ったことにします」

18 52歳の男性。生来健康であったが、会社の健康診断で便潜血が陽性であったため精査を勧められて来院した。大腸内視鏡検査でS状結腸に全周性の腫瘍を認め、精査の結果、リンパ節転移を伴う進行癌と診断された。引き続き手術と抗癌化学療法とが計画されたため、入院治療が必要であることを患者に伝えた。その後、患者が勤務する会社の上司から、「今後の人員配置を検討するために、患者の病状と職場復帰の見込みを教えて欲しい」と電話で問い合わせがあった。

情報提供を行う上で必要なのはどれか。

- a 患者の同意
- b 病院長の承認
- c 患者の在職証明
- d 診療録の開示請求
- e 倫理委員会の承認

19 49歳の男性。病期Ⅳの大腸癌で抗癌化学療法のため入院した。以下のように家族に関する情報を得た。

「既婚です」

「子供が3人おり、上から男、男、女です」

「長男は遠方で就職しており、私は妻と下の2人の子供と同居しています」

「父は胃癌で72歳のときに亡くなりました」

「母は脳卒中で60歳のときに亡くなりました」

「4人の兄弟姉妹で上から兄、姉、私、弟です」

家系図(別冊No. 3 ①～⑤)を別に示す。

家系図で適切なのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊 No. 3 ①～⑤

20 30歳の男性。起床後の尿がコーラのような色であったことを主訴として来院した。7日前に咽頭痛と発熱とがあったが軽快した。尿所見：蛋白2+、潜血3+。外観は暗赤色である。尿沈査の顕微鏡写真(別冊No. 4)を別に示す。

障害されている部位として最も考えられるのはどれか。

- a 糸球体
- b 尿細管
- c 腎 盂
- d 尿 管
- e 膀 胱

別 冊
No. 4

21 82歳の男性。呼吸困難のため搬入された。10年前に心筋梗塞を発症し、5年前に冠動脈バイパス術を受け、現在はアンジオテンシン変換酵素阻害薬とアスピリンとを服用中である。4泊5日の温泉旅行に行き3日前に帰ってきた。2日前からは身の回りのことで息切れを感じるようになり、昨晚、就寝後約2時間で突然呼吸困難、喘鳴および咳嗽が出現したため、救急車を要請した。意識は清明。脈拍112/分、不整。血圧142/88 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂95% (マスク4 l/分酸素投与下)。頸静脈怒張を認める。Ⅲ音を聴取し、全肺野に水泡音を聴取する。下腿に浮腫を認める。心電図で心房細動を認め心拍数は130/分である。前回検査時の心電図は洞調律で心拍数は64/分で、調律と心拍数の所見以外は変化はない。来院時の胸部エックス線写真(別冊No. 5)を別に示す。

治療として適切でないのはどれか。

- a 利尿薬の静注
- b ジゴキシンの静注
- c 塩酸モルヒネの静注
- d アドレナリンの点滴静注
- e 硝酸薬スプレーの舌下投与

別冊 No. 5

22 60歳の男性。心肺停止状態で家族の車で運ばれてきた。家族によると、「先ほどの地震で物が落ちて来て頭に当たって倒れた」という。右側頭部に約10cmの挫創があり、頭蓋骨が陥没している。死斑と死後硬直があり、心肺停止後数時間が経過していると考えられた。警察に届けなければならないと家族に説明した。

届出の根拠となる法律はどれか。

- a 医師法
- b 医療法
- c 刑事訴訟法
- d 死体解剖保存法
- e 災害対策基本法

23 20歳の男性。食欲低下を主訴に来院した。5日前から全身倦怠感を自覚するようになり、2日前から悪心と嘔吐とが出現した。意識は清明。体温36.7℃。脈拍84/分、整。眼球結膜に黄染を認める。血液所見：赤血球451万、Hb13.8g/dl、Ht42%、白血球3,600、血小板21万。血液生化学所見：総ビリルビン5.0mg/dl、AST2,232IU/l、ALT2,958IU/l、LD981IU/l(基準176~353)、ALP808IU/l(基準115~359)。

この時点の重症度の評価に必要な血液検査項目はどれか。

- a CRP
- b アミラーゼ
- c ナトリウム
- d プロトロンビン時間
- e α -フェトプロテイン〈AFP〉

24 76歳の女性。急に発症した左上下肢の麻痺を主訴に救急外来を受診した。医師の指示により、看護師が静脈路を確保した(①)。初診時の診察で脳卒中が疑われたため、医師の指示により、診療放射線技師が頭部単純MRIを撮影し(②)、医師が右中大脳動脈領域の脳梗塞と診断し入院させた。その後、薬物療法とリハビリテーションにより患者は順調に回復していったが、嚥下機能に問題を認めたため、医師の指示により、言語聴覚士による嚥下訓練(③)と管理栄養士による食事形態の調節(④)とが追加された。入院中、患者が不眠を訴えたため、過去に交付された処方箋を参照して、薬剤師が睡眠導入薬の処方箋を交付し(⑤)、患者への投薬が行われた。

下線部のそれぞれの医療専門職の行為として適切でないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

25 61歳の男性。生来健康である。1週前に孫が生まれたのをきっかけに禁煙を思い立った。昨日から禁煙しているが、イライラ感が強いため禁煙外来を受診した。その時の医師と患者の会話を以下に示す。

患者 「昨日起きてから禁煙しているのですが、たばこを吸いたくてたまらなくなります」

医師 「それは大変ですね。しかし、禁煙を始められたのは、たいへん立派だと思います」

患者 「ありがとうございます。禁煙のつらさがよくわかりましたので、適切な指導が必要だと思って来ました」

医師 「わかりました。それでは一緒に頑張りましょう」

行動変容のステージはどれか。

- a 無関心期
- b 関心期
- c 準備期
- d 実行期
- e 維持期

次の文を読み、26、27の問いに答えよ。

56歳の男性。胸痛を主訴に来院した。

現病歴 : 2時間前にテレビを見ていたとき突然、前胸部の締めつけられるような痛みを感じた。痛みは約15分続いた後いったん消失した。1時間前から再び出現したため家族の運転する自家用車で来院した。来院時には胸痛は消失していた。

既往歴 : 51歳時に健康診断で高血圧を指摘されたが治療は受けていない。

家族歴 : 特記すべきことはない。

26 確認すべき症候のうち、緊急度の高い疾患の可能性を下げるのはどれか。

- a 冷や汗
- b 移動する背部痛
- c 安静時の息苦しさ
- d 腕に放散する痛み
- e 触診で再現される胸痛

27 現 症 : 身長 162 cm、体重 85 kg。体温 36.6℃。脈拍 88/分、整。血圧 162/102 mmHg。呼吸数 16/分。SpO₂ 97 % (room air)。皮膚は湿潤である。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。橈骨動脈の触知は良好で左右差を認めない。足背動脈の触知は良好で左右差を認めない。下腿浮腫を認めない。

検査所見 : 尿所見: 蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)、潜血(-)。血液所見: 赤血球 460 万、Hb 13.0 g/dl、Ht 42 %、白血球 8,400、血小板 21 万。血液生化学所見: 血糖 138 mg/dl、HbA1c (NGSP) 5.4 % (基準 4.6~6.2)、総蛋白 7.4 g/dl、アルブミン 3.9 g/dl、尿素窒素 11 mg/dl、クレアチニン 0.9 mg/dl、尿酸 7.5 mg/dl、総コレステロール 223 mg/dl、トリグリセリド 256 mg/dl、総ビリルビン 0.8 mg/dl、直接ビリルビン 0.3 mg/dl、AST 22 IU/l、ALT 14 IU/l、LD 172 IU/l (基準 176~353)、ALP 225 IU/l (基準 115~359)、 γ -GTP 36 IU/l (基準 8~50)、アミラーゼ 48 IU/l (基準 37~160)、CK 138 IU/l (基準 30~140)、Na 144 mEq/l、K 3.8 mEq/l、Cl 105 mEq/l、Ca 9.9 mg/dl、P 3.3 mg/dl。12 誘導心電図は洞調律で有意な ST-T 変化を認めない。胸部エックス線写真は心胸郭比 46 % で肺うっ血を認めない。心エコーでは壁肥厚、壁運動低下および右心負荷所見を認めない。現時点で、他に実施すべき検査はどれか。

- a 運動負荷心電図
- b 胸部単純 CT
- c 呼吸機能検査
- d 心筋トロポニン T 測定
- e 脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) 測定

次の文を読み、28、29の問いに答えよ。

84歳の男性。尿閉と下腹部痛とを主訴に来院した。

現病歴 : 以前から尿意を催しても排尿に時間がかかることを自覚していた。2、3日前から鼻水と咳とがあり、昨日の朝から市販の総合感冒薬を服用した。その後さらに尿が出にくくなった。今朝はほとんど尿が出ず、下腹部痛も自覚したため受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙は20本/日を60年間。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。体温36.4℃。脈拍76/分、整。血圧158/78 mmHg。呼吸数14/分。SpO₂ 97% (room air)。頭頸部と胸部とに異常を認めない。腹部は下腹部が膨隆しており、やや硬い。軽度の圧痛がある。

28 現時点で実施する**必要がない**のはどれか。

- a 尿検査
- b 直腸指診
- c 血液検査
- d 腹部造影 CT
- e 腹部超音波検査

29 最も考えられるのはどれか。

- a 尿管結石
- b 膀胱腫瘍
- c 前立腺肥大
- d 急性糸球体腎炎
- e 腹壁癒痕ヘルニア

次の文を読み、30、31の問いに答えよ。

48歳の男性。腹部膨満感、咳、腰痛および腹痛を主訴に来院した。

現病歴 : 2年前に胃癌で胃全摘術を受け、その後外来で約6か月間の抗癌化学療法を受け外来通院で経過観察となった。1年前に腫瘍マーカーの上昇と肝転移とを指摘され、再度抗癌化学療法を受けたが、食欲不振が高度となり、治療効果が認められず中止となった。4か月前から上腹部の膨満、咳および腰痛を自覚していた。画像診断で軽度の腹水貯留と肝、肺および腰椎への多発転移が認められた。利尿薬、鎮咳薬および非ステロイド性抗炎症薬の処方にて落ち着いていたが、3日前から新たに腹部の鈍痛が出現したため受診した。経口摂取は可能である。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は日本酒1合/日を20年間。

家族歴 : 父親が肺癌のため70歳で死亡。

現症 : 意識は清明。身長165 cm、体重56 kg。2年間で10 kgの体重減少。体温36.2℃。脈拍84/分、整。血圧134/80 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂ 96%。眼球結膜に黄染を認めない。心音に異常を認めない。呼吸音は左背部で減弱している。腹部はやや膨隆しているが軟で、心窩部に圧痛がある。心窩部に肝を触知し、両下肢に軽度の浮腫を認める。

検査所見 : 血液所見：赤血球364万、Hb 10.3 g/dl、Ht 32%、白血球6,400、血小板14万。血液生化学所見：血糖78 mg/dl、総蛋白5.9 g/dl、アルブミン2.4 g/dl、尿素窒素10 mg/dl、クレアチニン0.4 mg/dl、尿酸4.9 mg/dl、総コレステロール187 mg/dl、トリグリセリド143 mg/dl、総ビリルビン0.8 mg/dl、AST 32 IU/l、ALT 18 IU/l、LD 387 IU/l(基準176~353)、ALP 644 IU/l(基準115~359)、 γ -GTP 32 IU/l(基準8~50)、アミラーゼ124 IU/l(基準37~160)、Na 134 mEq/l、K 4.4 mEq/l、Cl 97 mEq/l、Ca 6.5 mg/dl。CEA 28.7 ng/ml(基準5以下)、CA19-9 336 U/ml(基準37以下)。CRP 3.4 mg/dl。動脈血ガス分析(room air)：pH 7.32、PaCO₂ 38 Torr、PaO₂ 94 Torr、HCO₃⁻ 19 mEq/l。

30 まず行うべき治療はどれか。

- a 輸 血
- b 放射線治療
- c 抗癌化学療法
- d モルヒネの経口投与
- e フェンタニルの持続静注

31 その後治療が奏効し、家族と共に有意義な日々を過ごしていたが、病状の進行に伴い、なぜ自分だけがこのような目に遭うのだろうかと深く悩み不眠をきたすようになった。睡眠薬の内服投与を受けたが十分な睡眠が得られず、5日前から食欲不振と無気力さが増強してきたため家族とともに受診した。

患者と家族とに対する提案として適切なのはどれか。

- a 放射線治療
- b 抗癌化学療法
- c オピオイドの急速静注
- d 非ステロイド性抗炎症薬の増量
- e 精神科医へのコンサルテーション

